

平成 25 年 3 月 7 日

主任研究員および所属長会議  
伊藤幸成 議長

### 森田超重元素研究室最終レビュー報告

レビュー委員  
櫻井 博儀  
東 俊行  
岩崎 雅彦  
前田 瑞夫

平成 25 年 3 月 7 日に行われた森田超重元素研究室最終レビューについて下記の通り報告する。

森田超重元素研究室は、理化学研究所の准主任研究員制度とともに平成 18 年に発足した。森田浩介准主任研究員が平成 25 年 4 月から九州大学教授として転出する事となったため、森田超重元素研究室の最終レビューを行った。

平成 24 年 2 月、森田超重元素研究室は、平成 18 年度から平成 23 年度までの研究業績などに対する研究業績レビュー（中間レビュー）を受けているため、この最終レビューでは、過去 1 年間の業績や今後の計画を中心にインタビューを行った。

過去 1 年間の特筆すべき成果として、113 番元素の第三事象を取得したことをあげることができる。この第三事象は平成 24 年 8 月 12 日に発見し、9 月末にこの成果が JPSJ 誌に掲載された。第三事象は、これまでの 2 事象と異なり、連続したアルファ崩壊が既知核へと到達し、まさに黄金事象とも言えるものである。誌上発表と同時に記者会見が行われ、113 番元素の命名権取得に向け、大前進した。

113 番元素生成プログラムは平成 24 年 10 月 1 日に終了し、119 番元素など、より重い元素合成に挑戦するための準備を行っており、また 10 月 1 日の 113 番終了宣言以降、多数の問い合わせが殺到し、多くのプログラムが申請されている。現在、 $Z=106$  の核化学研究が行われている。

森田超重元素研究室は、平成 24 年度末に終了するものの、仁科センター内に森田超重元素研究グループが用意され、引き続き、理研の森田として超重元素科学研究が推進される。近未来の研究として、新元素探索のほか、新しいビームを利用した核融合反応の系統的研究、核構造研究などが計画されており、今後の発展が大いに期待される。

なお森田氏より、今後の准主任制度の在り方として、准主任のキャリアパスを明示すべきとのコメントがあった。

また、森田氏の転出にともない、仁科センター内で森田グループが発足し、森田氏の研究拠点の継続性と九州大学との研究人材交流が一層強くなることは非常によいことである。一方で、今後、理研の顔ともいべき人材が転出する際、新生科学者会議がどのような役割を担えるのか、今後の科学者会議の議論に注目したい。